

森消化器内科外科では、

平成27年10月1日より

マルチスライスCT を導入しました



マルチスライスCTとは



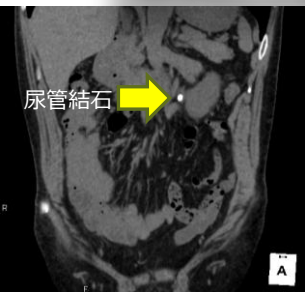
『CT』とは、Computed Tomographyの略称名称であり、人体に多数の方向からX線を照射し、体の断面をコンピュータ解析によって画像化します。照射したX線を受け取る検出器が1列となるCTを『シングルスライスCT』と呼び、『マルチスライスCT』は、複数の検出器が並んでおり、1度の撮影で多くの画像情報が取得できます。

取得した画像情報は、薄いスライス厚で細かく分析し、ワークステーションと呼ばれる高性能コンピューター処理により、立体的な三次元画像（3D）を作成します。

マルチスライスCTは、優れた描出能を発揮すると同時に撮影時間の大幅な短縮と放射線の被ばく量を抑えることができ患者様が安心して受けていただける検査です。

実際にこのような検査を行います

単純CT検査

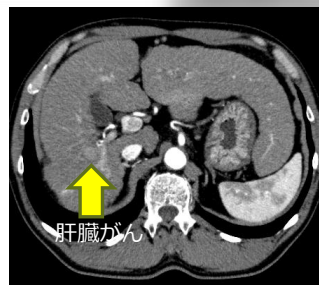


腹部CT像

単純CT検査とは、造影剤を使用せず撮影する検査です。仰向けになって目的の部位を撮影します。水分や食事制限はなく、検査時間は数分程度で終了します。

必要に応じてさらに造影CT検査を受け、治療方針に従って治療や処置を受けることが大切です。

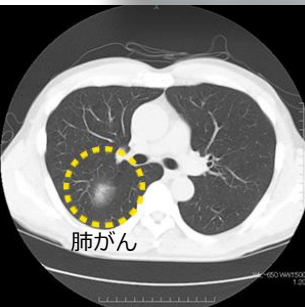
造影CT検査



腹部CT像

造影CT検査とは、ヨード造影剤を静脈から注射して撮影する検査です。数ミリの小さい病変や正常組織・臓器とのX線透過性が変わらない病変は、単純CT検査では診断に限界があります。造影剤を用いることによってこれらの病変も明瞭に描出され、より正確な診断が可能となります。

肺がんCT検診



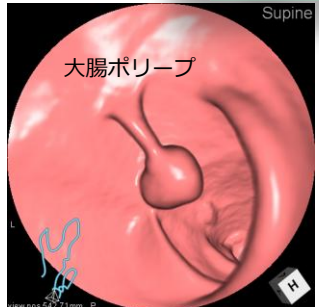
胸部CT像

胸部X線検査では見つかりにくい隠れた小さながんや慢性肺疾患の発見が可能になります。症状の出にくい、『小さな肺がんの早期発見』に有効な検査です。また肺がんCT検診では、病変を見逃さない程度まで放射線量を減らした『低線量CT』という方法で検査します。

当院人間ドックのオプション検査でご案内しています。

こんな方にお勧めです

大腸CT検査



大腸仮想内視鏡像

内視鏡を使わない新しいスタイルの大腸検査です。炭酸ガスを肛門から注入し、拡張させて大腸をマルチスライスCTで撮影します。その後ワークステーションで三次元画像を作成し診断する検査です。

検査に対する『苦痛が少なく』短時間で終了します。欧米では、機器性能の向上によりCTを用いて大腸を診断することが一般化しており、日本でも近年注目されています。

- 喫煙者で1日の喫煙本数×喫煙年数=600以上の方
- 同居者に喫煙者がいる方
- 血縁者に肺がんの患者さんがいる方
- 有害物質取扱者（アスベスト・粉じん業者など）
- 50歳以上の肺がんが心配な方（男女問わず）
- 肺がんが心配な方

詳しくは当院のホームページをご覧ください



<http://morishoukaki.byoinnavi.jp/>

